

「南アフリカ共和国」

経済学部経済学科 宮西ゼミ
米系投資銀行 就職
小野木 俊介

●● 琵琶湖の蛙、アフリカヘトビタツ

私は「トビタテ!留学JAPAN:世界トップレベル大学等コース」の第二期生として、ミシガン州立大学への留学後、南アフリカの最貧困地区"Vrygrond"でのビジネスインターンシップに取り組みました。

現地ではNGOに所属して、各国から集ったメンバーと共に、



プロジェクトメンバーとの一枚

ボランティア活動ではなくビジネスの視点を通じて現地の貧困問題を解決することに力を注ぎました。

当初は現地の人々に

受け入れられず、仕事も上手くいかない日々が続きましたが、ゼミと留学で追求し続けた財務の専門性と、体育会サッカー一部で培った体力を活かして、最後には結果を出す決意して活動を続けました。

その結果、共同仕入れを行うシンジケートを設立し、現地の人々が日用品を格安で購入できる仕組みを確立できました。現在でも、定期的に連絡をとって状況を把握しています。

●● 世界の2極を体験して

荒れ果てた街、深刻な貧困、全く機能しないインフラ、非常に高い犯罪率など、現地では衝撃的な経験の連続でした。米国留学の直後ということもあり、世界の格差の大きさを目の当たりにして、心臓を射抜かれるような大きな衝撃を受けました。

インターンシップを通じて、異文化の中で働く経験だけではなく、世界の現実の一つを体験することができました。大学生として最後の年に、世界の国々の発展に貢献するという自身の決意を再確認する経験となりました。

「エチオピア絵本プロジェクト」

経済学部ファイナンス学科 宮西ゼミ
三菱商事株式会社 就職
大脇 由佳

●● Dream Book Project “エチオピア奮闘記”

エチオピアの一人当たりGDPは、わずか518ドル。世界最貧国に分類され、アフリカでもとりわけ経済的に厳しい国であるが、1億2000万人の人口を抱え、巨大市場を生み出す可能性を秘めている。

私はこのエチオピアで子供達に日本文化を取り入れた独自の英語絵本を提供するプロジェクトを立ち上げた。将来世界のマーケットに成長するためには、子供が学べる環境を整えるこ



とが重要だと考え、英語の教材不足の解決と子供の異文化理解を深める事を目標に設定した。やがて世界を夢見て羽ばたく子

供たちを育てる、これが狙いだった。

手始めに、現地の教育機関を視察し、日本文化を取り入れた創作絵本を美大生と協



力して制作し、資金調達のためにクラウドファンディング会社と交渉した。しかし、絵本の作成は難航し、資金のめども立たず、劣悪なネット環境でのサイト作りなど問題山積だった。当初予定していたビジネスモデルではうまくいかず、最終的に寄付に近い形で資金を集めた。幾度となく涙を流したが、資金のめどが立ち、絵本が届き、翻訳、そして製本。300冊の無償提供に何とか漕ぎ着けた時は感動で身体が震えた。「世界に挑む」という、大学4年間の集大成としての挑戦は、生涯の財産となる経験になった。